

Society's Activities

中村三郎会員の「地すべり学会功績賞」受賞によせて

弘前大学農学生命科学部・教授 檜垣大助

神奈川県県土整備部砂防海岸課・課長 網倉 孝

中村三郎会員はこのたび(社)日本地すべり学会の法人化10周年に当って、地すべり学会功績賞を受賞された。

氏は1954年東北大学理学部地学科を卒業し、直ちに当時の建設省地理調査所に勤務され、'55年6級職(上級職)の研修後、'57年防衛大学校数学物理学教室地学研究室(今日の応用科学群地球海洋学科)助手に転じ、講師、助教授・理博(東北大)、'79年教授に昇任し'96年退官され、名誉教授に就任した。この間'66~2001年横浜市立大学講師を兼任された。その後、氏は早稲田大・成蹊大・法政大大学院などの兼任講師(~2001)、日本学術会議第6部研連委員会副委員長(1995~98)を勤めるなど教育に尽力される傍ら、専ら地すべり等に関する調査・研究を継続されてきた。今日は、国・県等、防災事業関係の委員長・委員・地元の砂防ボランティア等に長年参画し防災に尽力され、また地元の大学の学術・研究財団、地元自治体の教育学習財団評議員などを勤め奉仕されている。

氏は、たまたま地すべり現象の多い長野県育ちという事もあり、学生の頃から斯界の碩学八木貞夫先生が書かれた「犀川・土尻川・裾花川流域の地すべり・砂防について」等の著書に接し、大地の異変・地質・地形・防災に関わる問題に大きく惹かれたとのことである。氏の地すべりに関する事始は、学生時代より歩き回ったフォッサマグナ沿いの姫川流域や犀川丘陵のフィールドワークが原点であるという。

1958年には地すべり等防止法が施行された。翌'59年には伊勢湾台風による激甚災害等もあり、災害に対する社会的な要請も大きく、また各分野における地すべり研究の総合化の問題もあり、1963年に地すべり学会が発足した。学会発足以前、佐々憲三・谷口敏雄・福岡正巳・山口真一・渡正亮といった方々と先生は何回も積極的に協議され、折にふれ学会発足のための作業指示もあり、連絡や作業等のため防衛大(横須賀)一建設省土木研究所(赤羽・駒込)を足繁く往復したことを想起されている。

'63年11月21日には青山の建設共済会館において約80名の参加者を得、記念すべき第一回地すべり総合研究会が開かれた(一年後、日本地すべり学会と改称)。その準備に際して、氏は幹事の一人として渡正亮幹事長の下で作業に専念し、発会を見ることが出来たことは、大きな喜びであったと回想されている。その後、学会は各会員のたゆまぬ努力の結果回を重ねる毎に発展をみた。また故山田剛二氏の後を受け、氏は1973年、急遽同学会事業計画部長を勤めることとなった。本務の傍ら学会事業のため一作業員として東奔西走20年、献身的に行動された。時には筆者らも鳥根県等に2度3度同行させていただき、氏と共に学会開催準備に専念した。また氏は1994~96年第6代の学会会長を勤めた。

地すべり学会発足当初から、谷口・山口両先生は「法人化しなければ学会としては一人前でない」と強調しておられたとのことであり、法人化は会員の念願でもあった。氏は谷口先生・島通保先生等の懸命なご努力の後を継いで1996年、法人化委員長に就任した。'97年1月、上申先の科学技術庁へ伺われ、「法人化の許認可はなるべく控えるように」という閣議決定の通達が出ているのでご承知おき下さい」と担当課長から最初に勧告されたという。この言葉によって、氏はかえって大きな勇気と更なる意欲を抱いたと述懐している。その後、科技厅へ56回、部内打ち合わせ・書類作り等40教回に及ん

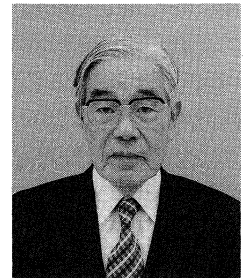
だという。故田中耕平理事のご指導の他、法人化各委員の協力、及び書類作りとその構成等については、当時の学会大久保慶理事、当時ネパールにおられた岡本正男現全国治水砂防協会理事長の貴重なお知恵もいただいたこと、大量の書類収集作成では、当時の学会尾山繁機理事ほか数名の方々が休日返上で作業していただき、提出指定日直前になんとか完成できたことを、有難く大きく思い出されます、と氏は当時を想起している。

多くの人々のご助言・ご支援・作業努力を頂き、地すべり学会は1999年8月25日、「社団法人日本地すべり学会設立許可書」を小渕恵三内閣総理大臣から授与された。谷口・山口両先生が法人化に関わるアクションを起こしてから24年経過していた。このたび法人化10周年を記念して、地すべり学会功績賞を授賞された中村三郎氏は、「この賞は私一人のものでない、ご努力いただいた全ての方々のものであります。設立許可書の中村三郎は一作業代理人の氏名にすぎない、総理からの許可文書に名前を載せて頂いたのは皆様に対して借越であります。しかし光栄です。更なる学会の発展と防災への貢献を祈るばかりです」と語り、「ありがとうございます!」と氏は目を潤ませていた。

諸先輩・全国でご活躍の各位を差し置いて、長年・公私にわたり中村三郎先生よりご指導を得てきた私共があえて受賞へのお祝いの一文を書かせて頂きました。私達は、斜面災害と闘いそして共生している世界の人々、そのための技術・手段を研究・実践している人々と共に、学会・法人活動をさらに発展させていくべきことに心を新たにしました。

中村三郎先生経歴(2009年現在)

- 1930; 長野県伊那市生まれ
- 1954; 東北大学理学部地学科卒業
- 1954; 建設省地理調査所勤務
- 1957; 防衛大学校助手数物教室地学科(現応用科学群地球海洋学科)勤務
- 1962; 同上講師, '66助教授
- 1964; 横浜市立大学併任講師(2001年まで)
- 1969; 理学博士(東北大)
- 1980; 防衛大学校教授 兼ねて理工学研究科教授, 学群学科主任等勤む
(環境地球科学, リモートセンシング2, 地球工学, 地形学, 他)
- 1996; 同上定年により退官, '7月防衛大学校名誉教授現在に至る
- 1996; 早稲田大学・法政大学大学院・成蹊大学兼任講師(2006年まで)
- 1996; (財)砂防地すべり技術センター理事・監事現在に至る
- 1999; (財)防衛大学校学術・教育財団評議員, 現在に至る



中村三郎会員